

地歴問

地理歴史

令和 4 年度(前期日程)

注意事項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 1 冊(本文 16 ページ、下書用紙 2 枚)で、解答用紙は 1 枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理,
以上 3 科目のうちから 1 科目を選んで答えなさい。さらに、選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

						2
--	--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、算用数字及びアルファベットに限り、1 マスに 2 文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には 1 マスを使用すること。ただし、例えば「問 1」ならば「1」とのみ書いても構いません。なお、問題番号は問題ごとに指定された解答字数に含めます。

(例) I の「問 1」の場合 →

I

1		
---	---	---	---	---	---	--	--

5

世 界 史

I 次の文章は、神聖ローマ帝国の皇帝フリードリヒ1世(バルバロッサ)が1158年にイタリア北部のロンカリアで発した勅法「ハビタ」の全文である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

著作権保護の観点から、公開していません。

(勝田有恒「最古の大学特許状 Authenticum Habita」『一橋論叢』第 69 巻第 1 号より引用。但し，一部改変)

問い この勅法が発せられた文化的・政治的状況を説明しなさい。その際，下記の語句を必ず使用し，その語句に下線を引きなさい。(400 字以内)

ボローニャ大学 自治都市

II 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

著作権保護の観点
から、公開していま
せん。

(「全文で振り返るバイデン氏議会演説」『日本経済新聞』電子版，2021年5月5日
より引用。但し，一部改変)。

問い 下線部からは、この演説が、「米国雇用計画」に比肩しうるような 20 世紀アメリカの経済政策を念頭に置いていることがうかがえる。この 20 世紀アメリカの経済政策は、それ以降のアメリカの経済政策の基調を作った。しかし、こうした方向性の政策は、その後、強く批判されるようになる。この 20 世紀の経済政策の内容とそれが実施された背景について論じたうえで、それ以降の経済政策への影響を説明しなさい。また、それが、なぜ、どのような理由から批判されるようになったのかについても説明しなさい。(400 字以内)

Ⅲ 次の文章を読んで、問いに答えなさい。(問1から問3まですべてで400字以内)

光化門広場はソウル市民の憩いの場であり、多くの観光客が訪れる名所である。一方、ここは社会運動が活発である現在の韓国社会を象徴する空間でもある。2014年にセウォル号沈没事故が発生した際には、犠牲者の追悼や事故の責任を追及するデモがおこなわれた。さらに、2016～2017年には、当時の朴槿恵大統領の退陣を求めて、火を灯したろうそくを持った市民が光化門広場などでたびたびデモを実施し、同大統領は罷免されるに至った。韓国で、このプロセスは「ろうそく革命」と呼ばれており、20世紀後半の民主化運動を継承したものと評価されている。

光化門広場の奥には、朝鮮王朝の始祖・李成桂が漢城(ソウル)に建造した王宮・景福宮がある(光化門は景福宮の正門である)。近年は、韓国のアーティスト BTS がここでパフォーマンスを披露したことで話題になった。きらびやかなイメージのある景福宮だが、その歩んできた道のりは決して平坦なものではなかった。まず、1592年に景福宮の建造物の多くが戦乱のなかで消失した。再建されたのは19世紀半ばのことである。さらに、1894年に景福宮は日清戦争開戦に先立って日本軍に占領され、1895年には日本の朝鮮公使・三浦梧楼らの計画による朝鮮王妃(閔妃、明成皇后)殺害事件の現場ともなった。「韓国併合」後には、日本は景福宮の建造物を撤去し、その敷地内に朝鮮総督府の庁舎を建設した。そして、植民地支配からの解放50年を迎えた1995年以降、朝鮮総督府旧庁舎が撤去された。現在、景福宮の復元事業は大部分が完了している。

問1 下線部(a)に関して、1979年から1980年までの韓国における政治の動向について述べなさい。

問2 下線部(b)が示す戦乱(1592～1598年)の朝鮮側における名称を記したうえで、この戦乱の展開過程、また、この戦乱が明に与えた影響について述べなさい。

問3 下線部(c)に関して、1880年代から1894年までの朝鮮・清・日本の関係について述べなさい。

日 本 史

I 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問5まですべてで400字以内)

江戸時代の文人菅江真澄は、その紀行文「楚頭賀濱風」にて (b) の大飢饉で陰惨をきわめた東北地方の様子をつづり、その後、享和年間には同じ地方の秋田の銅山周辺(a)の紀行で、次のように記した。

著作権保護の観点から、公開していません。

すすきのいでゆ
([秀酒企乃温濤]の抜粋)

幕府による (c) の改革をはさんで、秋田の藩主佐竹義和は、農・林・鉱業を育成し、製糸や織物を奨励した名君として有名である。(d)しかし、その殖産の過程において藩がこの煙毒という、労働環境の悪化に起因した鉱夫の健康障害に直面していたことも、真澄の記述から同時にみえてくる。

問 1 下線部(a)の人物とほぼ同じ時代に活躍した越後国魚沼郡塩沢出身の有名な文人は誰か、また、その人物の代表的な作品をひとつ、それぞれ書きなさい。

問 2 (b), (c)に入る最も適切な元号を書きなさい。

問 3 下線部(d)が設立した藩校の名前を書きなさい。

問 4 下線部(e)の示す最も適切な鉱山名を書きなさい。また、この藩では鉱山開発を契機に、独特の画風もうまれることになった。その経緯について、以下の用語をすべて使い、簡潔に説明しなさい。

用語：『解体新書』，平賀源内，小田野直武

問 5 上の紀行文「秀酒企乃温濤」(抜粋)に描かれている鉱山被害の背景について、その歴史的経緯を、16世紀以降の日本の鉱物資源の開発と利用に関連させながら簡潔に説明しなさい。

II 次の史料は、大山捨松の死去を報じる『東京朝日新聞』1919年2月19・20日の記事である(一部を省略のうえ、表記を改めている)。これを読んで下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

著作権保護の観点から、公開していません。

(「大山捨松刀自 流行感冒にて逝去」
(b))

著作権保護の観点から、公開していません。

(「婦人界の先覚者 明治初年選ばれて 津田女史等と共に渡米」)

著作権保護の観点から、公開していません。

(「快活で温順な婦人 熱心な読書家 山脇房子女史談」)

*刀自…女性に用いる敬称 *紐育…ニューヨーク

問1 下線部(a)に関して、捨松の夫である「大山公爵」の氏名を書きなさい。

問 2 下線部(b)に関して、捨松が罹患したこの「流行感冒」は、「スペイン風邪」などと呼ばれたインフルエンザで、1918年から世界規模で流行した。この流行の背景には、当時のどのような世界情勢が関わっていたと考えられるか、簡潔に説明しなさい。

問 3 下線部(c)に関して、捨松が同行した使節の名称を書きなさい。また、留学生のひとりだった津田梅子が、帰国後に力を注いだ事業について、説明しなさい。

問 4 下線部(d)に関して、捨松らによる仲介は、1880年代、どのような歴史的背景のもとで、どのような目的をもっておこなわれたか、説明しなさい。

Ⅲ 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

著作権保護の観点から、公開していません。

(小林敏明『夏目漱石と西田幾多郎』)

問1 下線部(a)の人物は1938年に検挙される。この事件は何と呼ばれているか。また、この事件の内容について説明しなさい。

問2 下線部(b)の人物は、1940年に蓑田胸喜らから非難され、著書が発禁となった。うえ、文部省の要求で大学の職を失い、起訴された。その理由について簡潔に説明しなさい。

問3 独自の哲学体系を打ち立てたとされる下線部(c)の人物の代表的な著作名を示しなさい。

問4 下線部(d)の二・二六事件の背景には陸軍の統制派と皇道派の対立があった。両者の主張はどのようなものであるかを示し、事件による両者の関係の変化について説明しなさい。

地 理

I 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

今世紀に入り、中国で進められている西部大開発では、チョンチン(重慶)市が中央直轄市として開発の一拠点となっており⁽¹⁾、その経済成長率は国内上位にある。同市は各種の物品を水運や空運によって輸出しているが、中央アジア・ヨーロッパ向け貨物鉄道の起点ともなった。他方、ヨーロッパ連合(EU)加盟国のEU域外からの輸入をみると、輸送手段の構成にEU域内で大きな地域差のあることがわかる⁽²⁾。このうちEUへの入り口の1つに当たるポーランドでは、海外直接投資(FDI)によって外資系企業が集積して、相対的に低賃金の労働力を活用しており、2010年代に同国の貿易収支は大きく変化した⁽³⁾。

問 1 下線部(1)について、中国がこの開発を始めるに至った理由を1970年代末以降の地域開発上の課題に即して説明しなさい。また、西部大開発によってチョンチンの産業がどのように変化したのか説明しなさい。(125字以内)

問 2 表I-1は、ヨーロッパ内の地域A, B, C, Dに含まれるEU加盟国を8つ選び、それぞれのEU域外からの輸入額割合を輸送手段別に示したものである。地域A, B, C, Dが占める地理的位置に言及しながら、下線部(2)のいう地域差と、その差が生じる理由を説明しなさい。解答にはA, B, C, Dの文字を用いること(国名を答える必要はない)。(150字以内)

著作権保護の観点から、公開していません。

表 I-1 EU加盟国のうち8か国に関するEU域外からの輸送手段別の輸入額割合、および人口(2019年)

著作権保護の観点から、公開していません。

注：EECはヨーロッパ経済共同体を、ECはヨーロッパ共同体をさす。各地域とも、2国は陸上で国境を接する。また、異なる地域にある国は、互いに陸上で国境を接していない。輸送手段とは、EU域内に輸入された際に用いられた輸送手段をさす。輸送手段「その他」は、パイプライン、内陸水路、郵送などを含む。イギリスをEUに含めていない。

出所：Eurostat

著作権保護の観点から、公開していません。

注：イギリスをEUに含めていない。中国は、台湾、香港、マカオを含まない。

出所：Eurostat

II 以下は、神奈川県川崎市を対象に執筆された同じルポルタージュ作品のうち、3つの箇所からの抜粋である。これを読んで、問いに答えなさい。

著作権保護の観点から、公開していません。

(磯部涼『ルポ川崎』2017年。西暦年の表記法等、表記の一部を変えた。)

問 1 現代都市における産業や空間の変容にともない、下線部(1)にあるように、1つの都市が「二つの顔」をもつ現象が起きることがある。現代日本において2つの顔をもつと考えられる都市を1つ取り上げ(川崎市を除く)、その都市がどのような意味で2つの顔をもつといえるか、また、どのような過程をへて2つの顔をもつに至ったかについて、背景にある産業や空間の変容と関連づけて論じなさい。なお都市の事例は、特定の地方自治体単位でもよいし、その中の一地域でもよい。(125字以内)

問 2 下線部(2)にあるように、外国人市民が多数居住する工業都市における排外主義の台頭は、近年、世界各地の先進国で見られる現象となっている。なぜ排外主義が、先進国の工業都市で台頭しやすかったと考えられるか。都市の産業構造の変動、国際的人口移動の動向、国内の政治・社会の変容に言及しながら、論じなさい。(150字以内)

問 3 ツーリズム(観光)はさまざまな目的地をもつ。下線部(3)にあるように、目的地の種類や旅の形態によって、ツーリズムはさまざまなタイプの倫理的問題を引き起こすことがある。スラム・ツーリズム以外のツーリズムの事例を取り上げ、それがどのような倫理的問題を引き起こすことがあるか、目的地の種類や旅の形態と関連づけながら、論じなさい。(125字以内)

Ⅲ 資源・エネルギーに関する以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

著作権保護の観点から、公開していません。

〔日本経済新聞〕2020年8月10日

問 1 下線部(1)に関連して、図Ⅲ－1を見ると、中東依存度は1967年度をピークとして1987年度まで下がる。この理由を説明しなさい。(75字以内)

問 2 図Ⅲ－1を見ると、中東依存度は1987年度以降再び上昇傾向にある。この背景にはどのような理由が考えられるか。日本に原油を輸出する国を考慮しながら説明しなさい。(75字以内)

問 3 同じく図Ⅲ－1を見ると、2000年代後半より日本の原油輸入量が減少傾向にある。この背景についてエネルギー構成の観点から説明しなさい。(100字以内)

問 4 下線部(2)に関連して、水素のエネルギー利用には2種類の方法がある。これら2つの内容を答えなさい。続けて、新型コロナウイルス感染拡大による経済停滞からの復興にあたり、地域における再生可能エネルギー(再エネ)の利用を進めるためには、どのような政策対応が必要であると考えられるか、答えなさい。後半の解答にあたっては、下記の語句を用いて説明しなさい。なお、指定の語句はそれぞれA、B、Cと略してもよい。(150字以内)

A＝カーボンニュートラル B＝グリーンリカバリー C＝地産地消

著作権保護の
観点から、公
開していません。

注：中東依存度は、日本の原油輸入量に対する中東地域からの輸入量の割合。グラフは年度集計（4月～翌年3月）。
出所：資源エネルギー庁